

サムエル記第一 (3)

「サムエル誕生」

1 サム 1 : 19~28

1. 文脈の確認

I. 王政に向けた準備 (1~9 章)

A. サムエルの誕生と幼少期 (1 章)

1. サムエルの家族 (1 : 1~8)
2. ハンナの祈り (1 : 9~18)
3. サムエルの誕生 (1 : 19~28)

2. 注目すべき点

- (1) 士師記の時代の末期、イスラエルは政治的にも靈的にも、混乱状態にあった。
- (2) 新しい時代を導くのは、預言者サムエルである。
- (3) 前回は、ハンナの祈りについて学んだ。
- (4) 今回は、祈りの答えに対するハンナの応答について学ぶ。

命題：ハンナの行為は、信仰に基づく行為の完成形である。

彼女の行為の 4 つのステップが、そのことを示している。

I. 祈り：万軍の【主】に信頼する (18 節)

I. 18 節

1Sa 1:18 彼女は、「はしためが、あなたのご好意を受けられますように」と言った。それから彼女は帰って食事をした。その顔は、もはや以前のようなではなかった。

(1) まだ祈りの答えは得ていないが、彼女の内に変化が起きている。

- ①エリは「安心して行きなさい」と答えた。
- ②ハンナは、へりくだったことばでエリに別れを告げた。
- ③「帰って」 = 「自分の道を行った」 = 日常生活に戻った。
- ④食事をした。
- ⑤内面の変化が顔に現れた。

(2) 彼女は、エリのことばを神からの答えと受け取ったのである。

- ①彼女の信仰は、イスラエルの靈的再生の始点となった。

(3) 教訓

- ①神に委ねることが平安を得る秘訣である。
- ②心に平安があると、顔の表情にそれが反映される。

II. 誕生：人間の責務を果たす (19～20 節)

2. 19 節

1Sa 1:19 彼らは翌朝早く起きて、【主】の前で礼拝をし、ラマにある自分たちの家に帰って来た。エルカナは妻ハンナを知った。【主】は彼女を心に留められた。

(1) 人間の責任と神の主権のバランスが重要である。

- ①エルカナとハンナは、家に帰って来た。
- ②ハンナは、精神的にも肉体的にも回復し、夫婦関係が正常に戻った。

(2) 「知った」(ヤダー)

- ①これは性的関係を指す。
- ②創 4:1 「人は、その妻エバを知った」
- ③ハンナは、人間の責務を果たした。

(3) 「心に留める」(ザカール)

- ①「覚えている」
- ②神は、ハンナに対する恵みの時を定められた。
- ③創 8:1 「神は、覚えておられた」(箱舟の中の人と動物)
- ④時が満ちると、神は行動を開始される。
- ⑤神の「記憶」は、常に契約に基づく意志的記憶である。

(4) 教訓

- ①神の主権に応答するのが、人間の責務である。
- ②「日常的事を通して超自然なことが起こる」=ユダヤ的確信

3. 20 節

1Sa 1:20 年が改まって、ハンナは身ごもって男の子を産んだ。そして「私がこの子を【主】にお願いしたのだから」と言って、その名をサムエルと呼んだ。

(1) 神の御業は、自然の摂理に従って進められた。

- ①「年が改まって」=「やがて」=「その時が巡ってきて」
- ②ハンナは、男の子を産んだ。

(2) 「サムエル」という名前

- ①「神は祈りを聞かれた」
- ②神から与えられたという証しが、この名に込められている。
- ③サムエルの誕生は、預言者制度の始まりを告げる出来事である。

(3) 聖書における名前の意味

- ①神のご性質、介入、計画を示す「しるし」となる。
 - * イサク (笑い)
 - * サムエル (神が聞かれた)
- ②神からの使命や将来の働きを預言的に示すことがある。
 - * ヤコブ→イスラエル (神と格闘して勝った者) (民族の名の起源)
 - * イエス (主は救い)
- ③親の信仰の証しとなることがある。
 - * マナセ (忘れさせる) とエフライム (実を結ばせる)
- ④神が直接介入して命名することがある。
 - * アブラム (高く上げられた父) →アブラハム (諸国民の父)
 - * サライ (私の姫君) →サラ (王妃、諸国の母)
 - * バプテスマのヨハネ (主は恵み深い)

III. 乳離れ：神の時を待つ (21～23 節)

I. 21～22 節

1Sa 1:21 夫のエルカナは、年ごとのいけにえを【主】に献げ、自分の誓願を果たすために、家族そろって上って行こうとした。

1Sa 1:22 しかしハンナは、夫に「この子が乳離れして、私がこの子を連れて行き、この子が【主】の御顔を拝して、いつまでもそこにとどまるようになるまでは」と言って、上って行かなかった。

(1) ラマからシロへの巡礼

- ①エルカナは、律法に忠実な人である。
- ②巡礼祭を守っていた。
- ③家族そろってとは、妻、子、使用人など家のすべての者である。

(2) 「自分の誓願を果たすため」

- ①民 30 章によれば、妻の誓願は夫が認めたときに有効となる。
- ②エルカナは、ハンナの誓願に同意することで自らも誓願に参加した。
- ③彼は、サムエル奉献を実行するためにシロに上ろうとしたのであろう。

(3) ハンナは、上って行かなかった。

- ①彼女は、神の時を待った。
- ②当時は、2～3歳で乳離れするのが普通であった。
- ③ハンナは、最小限の自立ができるまで養育すると決めた。
- ④時がきたなら、自分の手で息子を献げる決心をした。
- ⑤サムエルの献身は、ナジル人と異なり、生涯にわたるものである。

(4) 教訓

- ①私たちが、最善のタイミングと方法を模索すべきである。

2. 23節

1Sa 1:23 夫のエルカナは彼女に言った。「あなたが良いと思うようにしなさい。この子が乳離れするまでとどまりなさい。ただ、【主】がそのおことばを実現してくださるように。」こうしてハンナはとどまって、その子が乳離れするまで乳を飲ませた。

(1) 夫の同意により妻の誓願は有効になった。

- ①子を乳離れさせてから、【主】に献げるという誓願
- ②これは、感情ではなく、知恵と信仰に基づく判断である。
- ③ハンナは、その子が乳離れするまで家にとどまった。

IV. 奉献：請願を執行する (24～28節)

1. 24節

1Sa 1:24 その子が乳離れしたとき、彼女は子牛三頭、小麦粉一エパ、ぶどう酒の皮袋一つを携えてその子を伴って上り、シロにある【主】の家に連れて行った。その子はまだ幼かった。

(1) 請願の実行

- ①サムエルをシロに連れて行く。
- ②【主】との契約に基づく行為である。
- ③豊かなささげ物を献げる。
- ④感謝と献身のための完全なささげ物である。

(2) レビ記 1～3章：1サム 1：24

- ①全焼のささげ物：子牛 3頭（または 3歳の子牛）
- ②穀物のささげ物：小麦粉 1エパ（約 2ℓ）
- ③注ぎのささげ物：ぶどう酒の皮袋 1つ

(3) 「その子はまだ幼かった」

- ①「その子はまだ本当に幼かった」
- ②同じことば（ナアール）のくり返しによる意味の強調
- ③サムエルは、実年齢的にも精神的にも、極めて幼かった。
- ④サムエルは、神の召命と所有の中にある。

2. 25 節

1Sa 1:25 彼らは子牛を屠り、その子をエリのところに連れて行った。

(1) 礼拝の完成が見られる。

- ①誓願→②誕生→③乳離れ→④奉献

3. 26～27 節

1Sa 1:26 ハンナは言った。「ああ、祭司様。あなたは生きておられます。祭司様。私はかつて、ここであなたのそばに立って、【主】に祈った女です。

1Sa 1:27 この子のことを、私は祈ったのです。【主】は私がお願いしたとおり、私の願いをかなえてくださいました。

(1) エリに対する自己紹介

- ①「あなたは生きておられます」とは、誓いのことばである。
- ②私はかつて【主】に祈った女である。
- ③今、祈りの答えを伴ってここに来た。

(2) 【主】の家に仕える子どもを献げる母の模範である。

- ①祭司エリへの敬意
- ②誓願を果たそうとする情熱
- ③【主】の主権を認める信仰

4. 28 節

1Sa 1:28 それで私もまた、この子を【主】におゆだねいたします。この子は一生涯、【主】にゆだねられたものです。」こうして彼らはそこで【主】を礼拝した。

(1) ハンナは、「【主】に願った」ものを「【主】に返した」。

- ①子どもは、神から貸し出されたものである。
- ②この奉献は、一生にわたる奉献である。
- ③エルカナとハンナは、そこで【主】を礼拝した。

(2) 教訓

- ①信仰とは、願うことではなく、委ねることである。

結論：今日の信者への適用

1. 祈りの答えを記憶する。
 - (1) サムエルという名前には意味がある。
 - (2) 祈った場所に戻るという行為は、信仰の記念となる。
 - (3) その記憶は、礼拝における感謝につながる。

2. 祝福を神に返す。
 - (1) 与えられた祝福を神に献げ返すのが信仰である。
 - (2) 人生の優先順位の確立も、そこに含まれる。
 - (3) 祝福の流れの起点となろう。

3. 子どもを神からの預かりものとして育てる。
 - (1) 子どもの人生に用意された神の計画を発見する。
 - (2) 親の夢の投影ではなく、神の計画に則した子育てを実行する。
 - (3) クリスマンホームの育成の原則を学ぶ。

4. 祈りのサイクルの締めくくりは、礼拝である。
 - (1) 礼拝は信仰の着地点である。
 - (2) 叶えられた祈りは、私たちを礼拝へと導く。
 - (3) ハンナの信仰は、願うことにとどまらず、献げることで完成された。
 - (4) ここには、信仰が成長するためのサイクルがある。